

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

# ことう地域チームケア研究会たより

第22号

日時：平成 28 年 9 月 8 日(木) 18:30~20:30

会場：くすのきセンター1 階研修室 新規参加 26 名

参加者：90 名（医療関係者 39 名、福祉関係者 21 名、行政等 24 名）



## 『高齢化と精神障害～精神科領域における多職種連携～』

（一般社団法人 彦根医師会 ・ 湖東健康福祉事務所）

### 《テーマ》

彦根医師会 会長 堤正昭さん



「地域には精神疾患を抱えて暮らしている人は多くおられます。皆さんが関わっておられる方でも患者さん自身であったり、またそのご家族であったりするかと思います。とても身近な問題だと思いません。精神科領域について、さまざまな職種の方とともに学び、考えていけるよい機会になると思っています。」

話題提供：南彦根クリニック院長 上ノ山一寛さん

### ◆地域包括ケアシステムと精神科医療を考える

#### 診療所でケアマネジメントに取り組む意味

- ・ 精神障害を持ち、様々な生活上の困難を抱えることによって、単に医師一患者関係だけでは症状やQOLの改善が見込めない一群の人達が存在する。
- ・ そのような人々と、フォーマル・インフォーマルに関わらず、様々な社会資源と結び付けて、その人の持っている機能を最大限発揮できるように支援していく方法が重要である。
- ・ このように医療、介護、福祉、教育、就労など様々な社会資源を結びつけて包括的、継続的に支援していく方法としてケアマネジメントの手法がある。

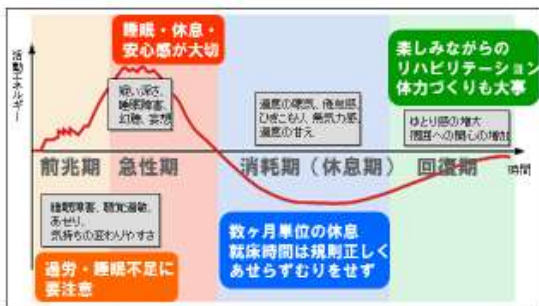


精神科診療所では、どのような職種であっても、**自らの専門性を磨く**とともに、**自らが提供できない支援がある場合は、積極的に他の支援者とつなぎ**、利用者の持っている力を最大限発揮できるように工夫し、**利用者のQOLを高めていく**ケアマネジメントの手法を身につけるべきと考える。

### ◆精神疾患の経過と症状（一例）

#### 「統合失調症」の経過と症状

■統合失調症は病気の経過により、大きく4期に分けられる



※人によって異なった経過を取ることもある

### 地域を耕す

地域包括ケアシステムにおける、精神科医療の役割。地域啓発を含めて、街づくりに関っていく。

### こころのケアチーム

地域の関係機関が集い、それぞれの信頼関係を深めつつ、協力・連携を推し進め、それぞれの地域の特徴を生かした地域連携モデルを進化発展させ、様々な精神的危機に対応できる地域こころのケアチームを組織する。

### 在宅医療

- ◎超高齢化社会に向かう今日の政策課題として、地域包括ケアシステムの確立が求められているが、そこへの精神科医療の関わりは未だ不明確である。
- ◎精神科診療所における在宅医療のオリジナルな定義の成熟が必要。
- ◎精神科診療所での在宅医療というと、在宅療養支援診療所という枠組みが活用できそうであるが、これは高齢者に対する「みどりの医療」をモデルに組み立てられており、「回復」「自立と社会参加」を目指した在宅医療とは目指すところが違っている。

### ◆『湖東こころのケアチーム研究会』

#### 精神科診療所における多職種・地域連携のこころみ

- 【呼びかけ共同世話人】
- 林拓二（豊郷病院）
  - 成田実（豊郷病院）
  - 菅原哲哉（菅原メンタルクリニック）
  - せー市郎（せークリニック）
  - 植月マミ（南彦根クリニック）
  - 上ノ山一寛（南彦根クリニック）

- ★事務局は、『地域生活支援センターまな』
- ★平成24年発足
- ★概ね毎月1回（年間8~10回開催）
- ★医療、障害、福祉、介護、行政等々、多職種、多職種で事例検討などを行います。

# 交流会よい

## 交流会・自己紹介タイム

～感想・自分たちができること・もっと知りたいこと～

今回、南彦根クリニックや地域生活支援センターまな、サタデーピアなど、湖東地域の精神保健医療福祉分野で活躍されている、看護師、精神保健福祉士の皆さんが多く参加してくださいました。話題提供の感想や日頃関わっている利用者や家族のことを語りながら、みんなで精神科疾患をもつ患者様の地域支援について考えました。

☆司会は加賀爪雅江さん（湖東健康福祉事務所）



## グループ交流会

### 《感想》

- ・精神科領域の勉強をする機会が持ててよかった（歯科）。
- ・身近な人に精神疾患の方が居て、地域に支援の体制があることを聞いて安心した。

### 《信頼関係の構築》

- ・本人との信頼関係を築く
- ・精神疾患、クリニック受診を家族が行うこと難しい。通院して、本人の話をゆっくり聞く、共感することが一番の薬ではないかと感じた。

### 《疾患に対する理解を》

- ・病気に対する理解を深めていかないといけない。
- ・精神疾患か老化から来る疾患か、わからない。
- ・『どこからが病気とされるのだろうか？』 基準は周りの人との関係や周りへの影響がどうか。
- ・周りの人の評価で病人になっていないだろうか。



## 全体交流会

精神科領域の話をもっと多職種で共有していきましょう！

- ★「サポート＝寄り添う、信頼関係を作る」認知症の方と同じ。
  - ★認知症のようなサポートシステムが精神福祉の領域でも地域に広がっていくとよい。
  - ★受診できない人への対応をどうしたらいいか。
  - ★診断名に惑わされず、生活を支えるという視点で関わるのが大切。
- 生活が困難になっている部分へのサポートが必要。

### 《支援体制の構築》

- ・認知症の方については様々な体制が整ってきて、皆で支えていこうという風になっているが、精神疾患の方の場合、そのようになっていない。
- ・本人が受診にいけない人も多い。まなにも相談している。主治医から専門に紹介してもらうという方法もあるのではないかとアドバイスがあった。
- ・相談窓口が分からない、少ない。
- ・奥座敷問題。訪問時に気付くこともある。
- ・どのように支援につなげていけばいいか困っている。
- ・地域資源、情報を活用してつながると良い。
- ・地域において在宅で家族に精神疾患の方がいる場合、キーパーソンがいない。

### 《チームケアを！「一人で考えず、皆で考える」》

- ・支援者が一人で抱え込まない チームでの支援を
- ・どのようにかかわればよいか迷う。ケアマネやヘルパーなどチームで関わるとよいが、行政なども加わってもらえるとよい（訪問看護）。
- ・支援者も行き詰ったりつらくなったりする。孤立しないように医師や関係者と一緒に関われるといい。今回初めて精神科領域の話ができた。今日が第一歩です。
- ・「こころのケアチーム研究会」に参加していきたい。

特別ではありません。

一人で抱え込まず、チームで考えていきましょう。

『地域包括ケア』はみんなの課題です。子どもからお年寄りまで、元気な人も療養中の方も、みんなが安心して暮らせる地域にするために、いろんなひととつながる、支えあうしくみです。この場(研究会)をきっかけに、新たなつながりが生まれていくことを期待しています。

## ご参加ください！ ことう地域チームケア研究会

お知らせメールの登録をお願いします

研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は①お名前②ご所属③ひとこと をいれて事務局までメール送信してください ☆事務局 (mail) [info@gen-ai-ken-kaigo.jp](mailto:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)

今回は・・・平成28年11月10日(木) 18:30～20:30

テーマ：『服薬管理と残薬整理について』

会場：くすのきセンター1階研修室

担当団体：彦根薬剤師会

\*申し込みは不要です。当日会場へお越しください

\*問い合わせ先：ことう地域チームケア研究会事務局

彦根愛知犬上介護保険事業者協議会（TEL 49-2455）

彦根市医療福祉推進課（TEL 24-0828）



彦根薬剤師会(丁子屋薬局)  
近藤嘉男さん

HP「在宅医療福祉の森」でも研究会のホームページをご覧ください。





# こんなこと思いました

第22回ことう地域チームケア研究会

参考になった、もう少し聞きたい、報告したい

地域包括ケアシステムの基本的な考え方で地域に責任を持つということを再認識した(看護師)

認知症をはじめ様々な精神疾患の方がいるが、どのような方でも信頼関係を築くことが治療の一步であると感じた。こころのチームケア研究会で事例検討会をされていたり地域で取り組みがなされていることをはじめで知った(看護師)

地域包括ケアシステムの中に精神疾患患者の支援をどのように組み込んでいくか、必要性はすごく感じています。今後の課題だと思います

高齢の方の精神疾患が思っていた以上に多いこと(理学療法士)

精神疾患の利用者さんとのかかわりが増えていく中で自分自身しっかり勉強していきたいと思います。もう少し先生の話をつゆり聞きたかったです(介護支援専門員)

介護看護についてチームワークで取り組んでいる点について学びました(医薬情報担当者)

交流会では上ノ山先生を交え、意見交換ができました。精神疾患利用者さんは安心できる環境が大切で関わるときの信頼関係、一人で抱え込まないようチームでの関わりが大切だと知ることができました(看護師)

精神疾患の方についての関わり方、ケアと思っていることの共有ができました(介護職)

精神科医の成田医師のグループに入り、いろいろ勉強になり楽しい時間をすごせました(看護師)

精神障害の人でも生きづらさは一緒です(医師)

精神障害、疾患に対する偏見を軽減することも大切(精神保健福祉士)

入院から地域へということで認知症と同じように精神科についても今後地域の人たちへの啓発などの取り組みが必要と感じました(介護支援専門員)

分けて考えずに中核症状に対して支援していけばよいこと(歯科衛生士)

普段精神疾患に関わっていない方々は、難しい、わからないと思うのだなと感じた。ケース検討をする際にこころのケアチーム研究会で検討できればよいと思った(保健師)

多職種の方々と集まると一つの話題提供でもいろいろな切り口があると感じました(相談支援専門員)

みんな精神疾患の方の対応が難しいと感じていることがわかってよかった(作業療法士)

統合失調症の方への具体的な対応(看護師)

精神疾患は特別なものではなく身近なものと感じました(理学療法士)

病院受診できない方へのアプローチについて(理学療法士)

精神疾患についてまだまだ理解が少ないのでなかなかよいサービスが出来ない。そのためしっかりと学習していくことが必要だと思う(福祉用具専門相談員)

病院に拒否があると医療の対応が難しい。しかし、関わりを持つ方法を模索することが大切(介護支援専門員)

「病院から地域、病院から在宅」地域みんなで支えていくことが大切だと学んだ(介護職)

日々の業務の中で他の職種と連携ができたことやもう少しこんな連携が出来たらよいと感じたこと

先生だけでなく看護師さん、ケアワーカーの人たちと関わっていけたらと思います(医薬情報担当者)

訪問看護をしています。多職種の方と連携していますが利用者さんの少しの変化であっても連絡し合えるとよいケアに無  
図美つけることが出来ると思っています(看護師)

主治医を中心にまともな感じています(介護支援専門員)

今日施設の方が入院されている病院で口腔外科の先生とSTさん、栄養士さんと一緒に嚥下評価を行いました。今後支  
援していく上でたくさん情報をいただきました(歯科衛生士)

気軽に相談しあえたらと思う(保健師)

入所施設に入ってしまうとその中の論理だけでその方を動かしてしまいがち。地域でいろんな思いの方に気軽に来てい  
ただき風通しをよくしてほしい(相談支援専門員)

院内ではチーム医療が出来ているところが多いが、地域ではまだまだチームで見れていないと感じる(理学療法士)

ドクターや他のステーションの方との情報交換を行いたい(理学療法士)

少しの気付きでもケアマネ、看護師、ケアワーカーと共有・共感していきたい(介護職)

# 第22回ことう地域チームケア研究会に参加して下さった方の所属事業所

(同意を頂いたところのみ記載しています)

《順不同》

松木診療所／中西医院／成美記念クリニック／南彦根クリニック／堤医院／横野医院／豊郷病院／彦根市立病院  
彦根中央病院  
野村歯科医院／ニュータウン上出歯科医院／つつみ歯科医院／むとう歯科医院／若松歯科医院  
丁子屋薬局／小野薬品  
彦根市訪問看護ステーションほほえみ／友仁訪問看護ステーションすずらん／訪問看護ステーション ふれんず  
レインボウとよさと／レインボウはたしょう／レインボウひこね／こころ訪問看護ステーション  
ケアプランセンターどりーむ／あったかケアプランセンター／笑ケアプランセンター／NPO ほほハウス（居宅）  
信幸ケアサービスセンター／彦根市社会福祉協議会（居宅）／友仁ケアプラン支援センター  
ケアマネジメントセンター・ライフ  
訪問リハビリステーション オリーブ  
デイサービスさくら／わいわいがやが家甘呂／愛荘ゆらぎあんどん／特別養護老人ホームさざなみ苑  
ナースログ／ケアサポートおうみ／(株) トーカイ  
甲良町地域包括支援センター／彦根市地域包括支援センターゆうじん  
地域生活支援センターまな／相談支援事業所かいぜ寮  
彦根市医療福祉推進課／彦根市障害福祉課／湖東健康福祉事務所／愛荘町役場

## 第22回のSNAP

2016. 9. 8

グループ交流のあとで全員自己紹介  
全体で意見をシェア

